GENERAL INCORPORATED FOUNDATION BACH GROVE

# バッハの森通信

第151号
2021年
4月20日発行

一般財団法人バッハの森
〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9　http://www.bach.or.jp
☎ 029-847-8696／Fax 029-847-8699　e-mail：info@bach.or.jp
郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

## 自滅しないために

### 今は謙虚に文化遺産を学ぶとき

世界中の人々が、もう一年以上苦しんできた新型コロナ・ウィルスとの闘いは未だに終息しません。政府が新年早々二度目の緊急事態を宣言したので、バッハの森は、開始したばかりの「春のシーズン」の活動を4週間、中止せざるをえませんでした。結局、2月半ばに再開した「春のシーズン」は、5週間活動した後、創立記念コンサートも中止して終わりました。しかし、どんな逆境であっても、私たちは与えられた命を守るために、新しい活路を見つけ出さなければいけません。

＊　＊　＊

歴史を通じて、世界各地で人類は感染症の流行によって多くの人命が一度に失われる悲しみを何度も経験してきました。そのようなとき、現代の医学的知識がなかった時代の人々が、感染症の原因を、人間界を超えた魔物や悪魔の仕業と考え、神仏に助けを祈願したことは容易に理解できます。8世紀半ばに聖武天皇が建立した奈良の大仏には、当時流行していた天然痘終息の願いが籠められていました。

ヨーロッパ各地では、しばしばペストの流行があったことが伝えられています。1596年に、ヴェストファーレン州のウンナの教会に、牧師として着任したフィリップ・ニコライ（Philipp Nicolai）は、着任早々ペストに襲われました。「私はペストにかかった人々の家々に囲まれ、墓地に住んでいるようなものだった。毎日24人、27人、29人、30人と運ばれてくる遺体を埋葬した」と書き残しています。奇跡的に生き延びたニコライは、1599年に『永遠の命の喜びの鏡』(Freudenspiegel des ewigen Lebens)を著して、彼が経験した永遠について語り、そこに2曲のコラールを添えました。

「いかに麗しく光輝くか、朝(ｱｼﾀ)の星は」
“Wie schön leuchtet der Morgenstern”

「起きよ、と呼ばわる物見らの声あり」
“Wachet auf, ruft uns die Stimme”

終末、すなわち世界の終わりに天の王国から来るイエス・キリストを、明けの明星のように輝く花婿として描き、彼を迎える信徒たちは、パラダイスで永遠に喜び楽しむことができると歌うコラールです。

＊　＊　＊

天然痘やペストで、毎日、ばたばた死んでゆく家族や友人、知人を見送りながら、明日は自分が死ぬかもしれないという恐怖の下に、必死に生きていた人々が、仏の慈悲、キリストの慈しみにすがりついたのです。それでは、彼らが疫病の原因として想定した魔物や悪魔とは何だったのでしょうか。

現在、私たちは、新型コロナ・ウィスの始まりが、中国奥地のこうもりから感染した人間だったことを知っています。我がもの顔に自然界に入って行った人間が、それまで人間界になかったウィルスに感染し、それを現代社会に持ち込むと、それが、これまた現代人が造り出したグローバリズムに乗ってパンデミック COVID-19 になったのです。魔物、悪魔の正体は私たち人間だったことが明らかになりました。

同様に、温暖化を初め、人間は自然界を散々破壊してきました。その上、自分だけ生き残ればいいという幻想に捕らわれて、強い者勝ちの生き方を止めません。こうして私たち人類は確実に自滅の道を歩んでいます。今や私たちは、自然界と謙虚に向き合った昔の人々が残した文化遺産を継承して、“慈悲”や“慈しみ”の心を学ぶときではないでしょうか。このようなことを考えながら、バッハの森は活動しています。皆様のご参加をお待ちしております。

（石田友雄）

## つながり感が出てくる スクリーン越しの交流

昨年1年間、会員の皆様も、COVID-19の世界的な流行によって、世の中のほとんどの人々と同じようにに、さまざまな予定を大きく変更するほかない状況に直面し、戸惑っておられたのではないでしょうか。私は新潟県にある小さな大学で教育・研究に携わっているのですが、去年2月、3月は、海外出張や会合、外出が全て取りやめとなり、誰とも会わない大変静かな生活が突如として始まりました。降って湧いたような自粛生活の中、今後に向けてどのような備えが必要か、考えておりましたところ、バッハの森から石田友雄先生の"Magnificat"「マニフィカト」の講義がEメールで毎週届きだし、友雄先生の「初動対応」の速さに驚きました。

＊　＊　＊

世間が、遠隔会議システムを使った在宅勤務や在宅授業に慣れてくる頃には、私の手元にも、学会や研究会、各種の講座などの案内が「オンライン開催」として届くようになりました。中にはオンライン音楽会や音楽のオンライン・レッスンの知らせもあり、当然、「バッハの森にもオンライン講座があれば」と考えるようになりました。そこで、親しくしている数人の会員に提案してみたところ、皆さん、仕事やお子さんの学校の関係で、ZOOMやスカイプなどの遠隔システムをお使いになっていたので、展開は早く、多少の試行期間ののち、少人数のセミナースタイルで行われるバッハの森の聖書の連続講座のオンライン参加の併用がすぐに定例化しました。こうして、以前から切望していた、友雄先生による聖書講義に参加する機会が得られ、大変嬉しく思っております。その後、オルガン音楽研究会でもオンライン配信が導入されたと聞いております。スタッフの方々のご協力に感謝申し上げます。

＊　＊　＊

世の中には、オンライン参加は対面参加の代替手段でしかないという意見もありますが、メリットも沢山あると考えます。まずは通信手段さえ確立すれば、遠方に住んでいても参加できるということ。そして、意外なことですが、今回、スクリーン越しの交流でも、次第に相互のつながり感が出てくるという発見がありました。オンラインで初めてお目にかかった方々とも、不思議なことに、回を重ねるうちに昔から活動をご一緒しているような感覚になってきました。一つのことに、ともに取り組むということと、講座の中で自由に発言できる雰囲気があることが大きいと思います。皆様、本当にありがとうございます。　（徐淑子）

## 民族史として読む聖書の面白さ

北海道に住む私は、バッハの森のプログラムに参加したくとも、毎週つくばへ出かけることもできず、これまでは「バッハの森通信」に石田友雄先生が書かれたものを読ませていただくことだけでした。しかし、昨年ZOOMで参加されている方がおられることを知り、2020年10月から「歴史書・聖書入門」コースに参加させていただくようになりました。

このコースでは、地図や先生が作成された年表などを見ながら、お話しを聞くだけではなく、他の方が、私がこれまで考えていなかったような質問をなさって先生がお答えになるのを一緒に聞いていると、また新たな興味や疑問が出てきて、一つの場に集まって学ぶことが出来ることによる楽しさを増していると感じます。

＊　＊　＊

聖書を、古代イスラエルの人たちが、自分たち民族の歴史を見直してまとめた民族史として読み進める視点から読むという読み方に、とても興味をそそられました。筆者が主張していることを読み取り、そこから、自分がこれまで学んできたことを訂正したり、それを違う視点で見られるようになってきました。

トーラー（律法）のまとめとしての申命記には、その基本的な考え方、乃至は主張として「全身全霊で唯一の神を愛せ」とあります。この視点に立って、アブラハムが「信仰の父」であるという認識を共通して持つユダヤ教、キリスト教、イスラム教が、それぞれアブラハムをどのように捉えているのか。これから「アブラハム物語」がどのように展開していくのかなど、多くの疑問を持ちつつ、初夏のシーズンの始まりを期待して待っています。　（西館弓子）

## オンライン参加で再確認した「私」が主体的に学ぶところ

私が当時務めていた職場のサバティカル休暇を利して、バッハの森の初夏のプログラムに参加して、はや10年以上が経ちました。そのとき、2ヶ月ほどゲストルームに滞在させていただいて、すべてのプログラムに参加したうえ、さらに個別のプログラムも作っていただきました。パイプオルガンを中心に、多角的にJ. S. バッハをはじめとする宗教音楽に触れ、参加する皆さんと共に学ぶことができた、私にとって本当に特別な休暇でした。「なんて楽しいんだろう。なんて面白いんだろう」。短い期間でした

が、バッハの森と継続的な繋がりや、次の学びの機会を求める気持ちが自分の中に芽生えるのに十分な時でした。

しかしながら、当時私は愛知県に在住しており、その後つくばに行くことはなかなか容易ではありませんでした。時々、ワークショップに参加したり、コンサートに足を運んで、そのたびに日常ではできない“心の洗濯”ができて、元気をいただいて帰りましたが、職場に復帰後は仕事が忙しくなり、所属する教会での責任も増え「また行きたい」と願う気持ちはありながら、バッハの森から家に届くパンフレットやチラシを溜息まじりに眺めるばかりでした。

このような中、昨年、コロナ禍がきっかけになってバッハの森のプログラムにオンライン参加ができるようになったことは、不謹慎な表現かもしれませんが、私にとっては思いがけない“朗報”でした。Zoom を使ってのプログラム参加は、遠方でも自室にいながらバッハの森と気軽につながることができる、さながら「どこでもドア」です。オルガン音楽研究会にオンライン参加をしましたが、聖書学者の友雄先生ならではの解説、懐かしい方たちのお顔や声にも触れることができて、皆様とご一緒に参加できることを本当に嬉しく思いました。オルガンの音色がよりきれいに聞こえるように工夫されるとのことで、ますます楽しみにしています。

バッハの森の記念奏楽堂に行って、そこでプログラムに参加し、オルガンの生演奏を聴き、皆さんと対面で交流できれば、もちろんそれに超したことはないでしょう。それでもオンライン参加の可能性が開かれたことによって、ゼロか百しかあり得なかったところに、もうひとつの可能性が生まれたことは、大きな意味のある変化だということを声を大にしてお伝えしたいと思います。バッハの森から遠方に在住している者にとってはもちろん、近くに住んでおられる方たちにとっても、それぞれの状況に応じた参加の選択肢が増えて、大きな機会が与えられたと思います。

＊　　＊　　＊

先日、オンラインプログラムに参加したとき、最後に「いかがでしたか？」と問いかけられて、発言の準備のなかった私はどぎまぎして何も気の利いたことを言えませんでした。バッハの森では、漫然と先生のお話しを聞くのではなく、「私」が学びの主体であることはオンラインでも同じで、久しぶりにバッハの森らしさに触れられたことを、怠け心への苦笑いと共に嬉しく感じました。　（鳥飼真紀子）

***LETTER／レター／手紙***

## ドイツから<br>皆さんのご健康を願って

友雄様、バッハの森の皆様

皆様に心より復活祭の御挨拶をいたします。今朝（復活祭翌日の月曜日）私たちは、カンタータ「キリストは死の縄目につき」(Christ lag in Todesbanden) の放送を聴きました。確かにこのカンタータのように、私たちにバッハの森を思い出させるバッハの音楽は他にありません。カンタータを聴きながら、私たちが、つくばで過ごした素晴らしい日々を考えていました。音楽、合唱、ミーティング、皆さんとの交わりすべてが生き生きと蘇りました。あの日々は、本当に私の人生を豊かにしてくれました。繰り返し申し上げます。有り難うございました。

全世界が異常な日々を経験しています。バッハの森はどのように活動していますか。11 月以来、私たちはもう合唱練習ができなくなり、Zoom で顔を合わせて歌う始末です。去年は復活祭以外の礼拝を中止しました。受難金曜日には、4 人の歌手がヨハネ受難曲のコラールを数曲歌い、それ以上することは許されませんでした。幸い私は今までハンブルクで学生たちを対面で教えています。それにしても COVID には疲れました。良い日々が戻ってくることを待ち望んでいます。そして、皆さんも私たちも、今年中、健康に過ごことができるよう願っています。

友雄さん、以上申し上げてきた感謝を、特に貴方と故・一子さんに申し上げたいと思います。あなたがたと過ごした日々は、私の人生の最も美しい、最も貴重な経験の一部です。ドイツからはるか離れたところで、バッハとバッハの音楽について何と多くのことを学んだでしょうか！貴方が学問と音楽に対する愛に、今後も精力的に元気に取り組んでゆかれることを切望しています。そして親しい友人の皆さんと十分連絡を取り合っておられるように願います。

皆さん全員が、素晴らしい復活祭、バッハの音楽と心の通う交わりを楽しみ、お元気に過ごされるよう心から願っております。

変わらない友情ときずなのもとにご挨拶をおくります。

ヤン (Jan)，　マインデルト (Meinderd)
（石田友雄・訳）

## 日　誌（2021. 1. 1～3.31）

＊R：オンライン参加

1. 8　**春のシーズン開始。**
1. 16　**運営委員会**　参加者 7 名（R 3）。
1. 20　**急告**　新型コロナ・ウィルスの感染拡大防止のため、1 月 17 日～2 月 13 日の 4 週間、活動を中止。
2. 13　**運営委員会**　参加者 9 名（R 5）。
2. 14　**春のシーズン**の活動再開。
3. 6　**運営委員会**　参加者 8 名（R 2）。
3. 20　**理事会・評議員会**　参加者 10 名。
春のシーズン終了。

### *J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ*
コラールを歌おう
カンタータ入門（JSB)

1. 9　**コラール「みどり児、生まれぬ、ベツレヘムに」**。オルガン：笠間きよ子。参加者 7 名。
1. 16　**第 472 回、顕現祭のカンタータ「彼らは皆シェバより来るであろう」**（BWV 65）；オルガン：J. S. バッハ「一人のみどり児が生まれた、ベツレヘムに」（BWV 603）、笠間きよ子。参加者 5 名。
2. 20　**コラール「安らぎ喜び心に」**。オルガン：安西文子。参加者 8 名。
2. 27　**第 473 回、マリア清め祭のカンタータ「平安と喜びをもって私はかなたへ行く」**（BWV 125）；オルガン：J. S. バッハ「平安と喜びをもって私はかなたへ行く」（BWV 616）、安西文子。参加者 7 名。
3. 6　**コラール「主よ、喜び」**。オルガン：横田博子。参加者 10 名。
3. 13　**第 474 回、顕現祭後第 4 主日のカンタータ「イェスが眠っておられる、私は何を望んだらいいのか」**（BWV 81）；オルガン：J. S. バッハ「イェスよ、 私の喜びよ」（BWV 610）、安西文子。参加者 9 名。
3. 19　**コラール「主の苦しみと痛みと死は」**。オルガン：別所香苗。参加者 9 名。
3. 20　**第 475 回、エストミヒのカンタータ「見よ、お前たち、私たちはエルサレムへ向かって上る」**（BWV 159）；オルガン：J. G. ヴァルター「イェスの苦しみと痛みと死」。別所香苗 10 名。

### *学習コース*

**バッハの森・クワイア（混声合唱）** 1. 9／9 名、1. 16／7 名、2. 20／11 名、2. 27／11 名、3. 6／11 名、3. 13／10 名、3. 20／10 名。
**オルガン音楽研究会** 1. 15 ／9 名（R 2）、3. 5 ／12 名（R 2）、3. 19 ／9 名（R 1）。
**コラール研究会**　1. 8／6 名、2. 19／6 名、3. 5 ／7 名、3. 19 ／9 名。
**オルガン・クラヴィコード　レッスン＆クリニック** 3. 19／2 名。
**オルガン・クラブ**　1. 8／2 名、2. 19／1 名、2. 26／1 名、3. 12／2 名。
**オルガン・レッスン**　3. 25／3 名。
**聖書入門**　1. 9／8 名（R 4）、1. 16／7 名（R 5）、2. 20／9 名（R 5）、2. 27／8 名 (R 3)、3. 6／8 名（R 2）、3. 13／10 名 (R 5)、3. 20／12 名 (R 5)。
**ハンドベル・リンガーズ（子どもと大人のハンドベル・クラブ）** 2. 14／8 名、3. 14／9 名。
**オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習**
1. 8／2 名、1. 9／1 名、1. 13／3 名、1. 14／1 名、1. 15／2 名、1. 16／1 名、1. 19／1 名、2. 8／1 名、2. 10／1 名、2. 18／1 名、2. 19／2 名、2. 20／1 名、2. 24／1 名、2. 25／1 名、2. 26／1 名、2. 27／2 名、3. 2／1 名、3. 3／1 名、3. 4／3 名、3. 5／1 名、3. 6／2 名、3. 9／2 名、3. 12／2 名、3. 13／2 名、3. 17／1 名、3. 18／1 名、3. 19／3 名、3. 20／2 名、3. 23／1 名、3. 25／3 名、3. 26／1 名、3. 30／1 名、3. 31／1 名。

＊　＊　＊

## *寄付者芳名*（2021. 1. 1～3. 31）

**一般寄付**
下記の方々から計 58,500 円のご寄付をいただきました。

**建物維持積立寄付**
下記の方々から計 130,000 円のご寄付をいただきました。

**オルガン修理積立寄付**
下記の方から計 20,000 円のご寄付をいただきました。